

山行報告

★裏剣の紅葉と山小屋の温泉を求めて

9月27日 夜行バスで出発、富山へ

上田

大阪梅田阪急バスターミナルに集合した今度の山行の参加者はL：砂川（延）（気象）

SL：上田（感想文）、SL：舩賀（健康）、荘所（装備）、砂川（美）（会計）、松下（医療）、待場（記録）、渡邊（事務局）、の8名。バスは定刻に富山へ向け出発した。

9月28日 室堂から別山乗越を越え真砂沢ロッジへ

5時少し前にバスは富山駅前に着く。ここから富山電鉄、立山ケーブル、高原バスを乗継いで室堂に入るのだが、それぞれに30～40分の待時間がある、もったいないがいたしかたない。車窓から大日連山の上に剣岳が見えだし、立山もきれいに見えていて天気はまずまず、玉殿の湧水を汲み、ストレッチをして8時50分室堂を出発する。ミクリガ池から地獄谷、キャンプ場のある雷鳥平へ約200m下る。ここから高度差500mの別山乗越へは二つのコースがあるが私たちは急坂の雷鳥坂を登る。このあたり急登とはいえ出発間もなくで元気いっぱい、天気、展望よく気持ちよく登る。約2時間の頑張りで別山乗越に着き、剣御前小舎の側で昼食を兼ねた休憩をとる。

ガスの切れ間に一瞬、姿を見せた剣岳

今回の山行ではこの後急登、急降が何度もあるが標高はここ2760mの別山乗越が一番高い。チングルマなどの紅葉とガスの切れ間に現れる剣岳を見ながら剣沢小屋をめざして下る。ガスがしだいに濃くなり剣沢小屋



裏剣～樺平

9月27日			
ポイント	着	発	メモ
大阪高速バス		21:40	
9月28日			
富山駅前	5:00	5:44	
立山ロープウェイ	6:32	7:00	ケーブル
室堂	7:07	7:25	高原バス
室堂ターミナル	8:10	8:45	登山口
雷鳥沢キャンプ場	9:30	9:45	休憩
剣沢小屋	11:55		
剣沢雪渓			アイゼン装着
真砂沢ロッジ	17:00		宿泊
9月29日			
真砂沢ロッジ		7:00	
南股 丸太橋	7:52	8:00	休憩
二股吊り橋	8:53	9:05	近藤岩
仙人新道	10:18	10:30	シュリンゲ装着
仙人池ヒュッテ	12:35	13:30	昼食
仙人温泉	16:30		宿泊

からとうとう雨になる。

今年は夏の猛暑の影響か、紅葉は遅れ雪渓の状態は悪い。雪渓縁の夏道を歩くのだがこれが不安定で歩きにくく時間を食う。雪渓を歩いたのは例年の3分の1くらいではなかったかと思う。

二度目の雪渓歩きが終わるころ真砂沢ロッジが見え、17時着。

9月29日 裏剣の絶景に歓声、秘湯仙人温泉でご満悦

6時過ぎ、雨上がる。小屋の主人夫婦に送られて真砂沢ロッジ7時出発、剣沢左岸を二股へ向かう。途中ハッ峰から派生する三の沢、四の沢を渡る。三の沢でもうすぐ冬が来るのに芽吹いたばかりのシダを見て自然の厳しさ、剛直さ、一途さを感じた。2時間で二股に着く。

二股の吊橋を渡り、標高差560mの仙人新道の登りにかかる。登りはじめて約一時間、裏剣の絶景に歓声をあげる。

真っ白い小窓雪渓、手に刺さりそうな鋭く尖った岩峰の連なり、急登のしんどさなど吹飛んでしまった。登るにつれて岩峰が近づき迫力を増す。ナナカマドやオオカメノキの実が赤く熟れているくらいで紅葉はまだまだだが、この景色を見ればこの度の山行目的の3割くらいは達成されたように思った。



「剣岳」の最後のところで「おそらく剣岳の一番みごとな景観は、仙人池あたりから望んだものであろう。眼前に岩と雪の交錯したダイナミックな光景が迫ってくる。雄々しい岩峰と、その間隙に光る純白の雪。これほどアルプス的な力強い構図は他に類がない。」と絶賛する光景だが、剣岳はガスにかくれて現れなかった。もう一度来なさいということだろうか。

仙人池から仙人温泉への下りに3時間余を要して16時半仙人温泉小屋に入る。小屋のすぐそばに露天風呂がある（男性専用となっているわけではないが、女性専用の風呂が別にある）疑う余地のない源泉掛流し、実に気持ちのよい湯で、ランプの灯りで、黒部峡谷をはさんで黒々とそびえる後立山連峰を見ながら入る温泉は、山を愛する者だけに許されたもの。この夜の仙人温泉小屋の宿泊客は私たちだけで小屋も温泉も貸切だった。

9月30日

ポイント	着	発	メモ
仙人温泉		9:00	
雲切新道	9:57	10:05	アイゼン装着
雲切谷	11:30	11:40	休憩
仙人ダム	15:20	15:40	休憩
阿曽原温泉小屋	16:50		宿泊

10月1日

阿曽原温泉小屋		8:00	
阿曽原谷	9:40	9:50	休憩
水平歩道	11:00	12:15	昼食
樺平	16:45	17:05	ビジターセンター
祖母谷温泉	18:00		宿泊

10月2日

祖母谷温泉		10:30	
樺平トロコ電車		11:46	
魚津駅	14:00	14:56	昼食
富山	15:13	16:34	お土産
大阪(阪急梅田)	21:05		高速バス

濃紫色のオヤマリンドウに迎えられて12時過ぎ仙人峠に登りつき、そこから仙人池ヒュッテに下ってコーヒープレイク。

裏剣といえば仙人池からの展望が定番だ。深田久弥が「日本百名山」の



9月30日 雨の雲切新道に悪戦苦闘

仙人温泉小屋は主人一人だけできりもりしていて、いかにも山好き、登ってきた客の面倒を見るのが楽しいという感じ、料金もユニークで年齢×100円（但し、労山会員のみ）若い人ほど安いのだが、それには、もっと若い人に山に来てほしいという気持ちを込めているのだとのこと、その主人に見送られて9時出発。

昨夜来の雨が降りつづくが、強い雨でないのが幸い。50分ほどで1629mの尾根上のピークに着く。ここで小屋の主人のすすめ

でアイゼンをつけて仙人ダムまで約800mの急降下。雲切新道は今夏から利用できるようになった急傾斜のやせ尾根につけられた道、梯子、ロープはいたるところにあり、ぬかるみ、木や笹の根が邪魔をする、なんでもありの道、ロープを出し、シュリングを使つての降下、昨日は天国、今日は地獄の感じ。アイゼンをつけての歩き方、シュリングでの安全確保の練習などの甲斐あってか無事ピーク



から5時間余の悪戦苦闘で仙人ダムに着いて「ホッ」とする。ダムから150mほど登り水平歩道を歩き、150mほど下って阿曾原温泉小屋に入る。この夜の阿曾原温泉小屋はふとん1枚に二人という混みよう、温泉に入っても眠れそうにない。

10月1日 水平歩道を歩いて祖母谷温泉へ

おおかたの宿泊客が出発した後の8時、小雨だが降りつづいているので雨具をつけての出発。約1時間で水平歩道にはいる、樺平までの長い水平歩道が始まる。水平歩道といってもなかなか曲者、梯子のアップダウンや沢を渡るところは何ヶ所もあるし、断崖をコの字形に削って作られた道だから道幅はせまく丸太2本のところもあり、一步踏みはずせば120%ダメ、「足元、気をつけて」「頭、注意」とひっきりなしに声が飛ぶ。出発から5時間近く、大太鼓から遠く樺平が見えたが、ここから



まだまだ長かった。最後に200m近い急傾斜を下って14時45分樺平に下山。長い山行が無事終わった。

祖母谷温泉までは50分ほどのダラダラ登り、日の暮れた祖母谷温泉に着き今夜も温泉を楽しむ。

私は9月30日が誕生日。昨夜はゆっくり酒が飲めるような状態ではなかったので一日おくれでみんなが誕生日を祝ってくれた。酒好きの私のために岩魚の骨酒を用意してくれ、宿の主人は大きな天然の岩魚の塩焼きをプレゼントしてくれた。私にとっては最も豪華で楽しい誕生日となった。

10月2日 トロッコ電車で帰路につく

10時半、祖母谷温泉を後にする。トロッコ電車で一時間余、黒部峡谷の景色を楽しみながら帰路につく。無事、山行を終えみんなが笑顔で帰路につけるのがなによりだった。

★無謀な挑戦だった！裏剣山行 砂川

“山小屋の温泉と高低差の少ないコース”にいけるかも知れないとメンバーに手を上げた。

今年は春から、いつもに無く元気で夏山にも参加し思いもかけない槍ヶ岳の小屋前に立つことができた。

「山は待ってくれるが歳は待ってくれない」機関紙の巻頭言が更に背中を押す。

リュックも新調して、仕事帰りでいっぱい夜の大阪駅に着く。高速バスの乗り場では一緒にトレーニングやミーティングを重ねた仲間が若者のような顔で集まって、すでにビールなんかを飲んで夜行バスに乗り込んだ。三列でゆったり。飛行機に乗っているみたいだ。ぐっすり寝て朝5時富山に着いた。地鉄やケーブルカーを乗り継いで室堂ターミナルに立った。30年位前、子供たちを連れ立山に登ったことがあったが感じが変わって、初めてのようだった。青空が見え山を仰ぎ見ることもできたが、強い風が冷たくて緊張している上に不安がよぎった。

「頑張ろう」と心に言い聞かせて2番手を歩く。標高差500mを登り、2750mの剣御前小屋のところでは、お天気が変わり雨具をつけることになる。

剣岳も雲とガスで見えず、剣沢の沢筋を沿うように下るが、何しろ傾斜がきついし岩だらけで道もぬれている。雪溪への下り口を捜して、アイゼンを装着、ガチガチの雪溪を歩く。さっさと歩け！と言われても恐くて声も出ない。雪溪では前が見づらいほどガスっているし予定時間は大幅に過ぎうす暗い。今度は、左岸に取り付いて、アイゼンを着けたまま歩く。これが又大変。岩の上に上ると滑りそうだし下を見れば崩れた雪溪のクレパスが大口を開けている。ここも同じで落ちたら、あの中へ吸い込まれるなと思うと立ちすくんでしまう。えらいところに来てしまったと反省を繰り返しながら、泣きそうになって真砂沢ロッジに着いた。温かいお茶に迎えられ手作りの変なお風呂に入って夕食、乾杯する頃には、すっかり元気になっていた。



仙人池から見える絶景を期待していたのですが・・・

2日目も本当に足場の悪い沢左岸の登山道や河原を下る。長い吊橋もリュックがゆさゆさしそうで足が出ない。ピッケルで引っ張ってもらい急登では S さんが後からリュックを何度も持ち上げてくれ、やっとの思いで仙人池ヒュッテについた。みんなは立ち止まって山並みだ、三の窓雪溪だとカメラを構えたりしていたけれども、私はそんな余裕など無い。足を踏み外さないよう神経を足に集中させ「いっちに、いっちに」と声に出して歩いた。仙人温泉の宿は、お湯のあふれる山の温泉で、女性3人ゆっくり汗を流し、又すっかり元気を取り戻して、乾杯。

3日目、この日は最も厳しい難所だらけ。沢を渡った先ではやめにアイゼンをつける。雨でグチャグチャの山腹を登り尾根に出る。アイゼンのお陰ですべらなかった。だけれどハシゴやロープが次々あり足元は竹の根が出ているし、引っかからないようため息、吐息、深呼吸。長い鉄梯子を下り、どろどろのスパッツ、雨具のまま満員の阿曾原温泉小屋へ最終ランナーで到着。勢いのまま10分程下ったところにある露天風呂に行き温まってやれやれ。

4日目、水平歩道とは云うが細かいアップダウン。右側が深く切れ落ちた断崖あり、トンネルあり。岩伝いに鉄線が張ってあるので手袋が破れる程、握り締めて長い道を歩き祖母谷温泉へ暗くなって着く。

今回は温泉で元気をもらい食事もういろいろおいしかったしお昼のうなぎ丼も最高だった。奥深い黒部の峡谷を開発した多くの働く人達と歴史に思いをはせながらトロッコ電車にも乗った。

私にとっては“無謀な挑戦”で反省しきりであった。「行きたい山」と「いける山」は違う。巻頭言にあったこの言葉もかみしめた山行だった。反省会ではリーダーである夫が私に厳しく注意していたことに対して、みんなが同情と、かえってびびってしまうと言ってくれた。

みんな優しいな――。

私は常日頃のことなので、すっかり忘れていたが“自分に言われていると思って歩いた人もいて、申し訳なく思った。寒さや雪がなかったからよかったものの、予定時間を大幅に遅れ、遅い足を引っ張りリーダーとしては何倍も疲れただろうし、後に続く仲間もしんどい思いをしたことだろう。

時間とお金を少し掛けて山小屋泊まりでゆっくりならいけるかもとの甘い思いも、もう止めにした。夏山の M リーダーも大変だったんだろうと改めて思った。

ロックガーデンや飯盛山でのアイゼン歩行やロープワークのトレーニングも役立ったし、何よりもミーティングを重ねた仲間との一体感が、もう一つの山の魅力であることも分かった山行であった。

温泉付きの山行のお陰か、マイペースで歩いたせいか足や膝も痛くなく疲れも残らなかった。

“ヤッター！”と友達にメールを送りたかったが、そんな気持ちでもなく、今頃になって、ようやく、よく行ったワと一人感激している。

本当に、みんな有難う！



スリルのある水平歩道を注意しながら歩く

